

第15回日本遺伝子診療学会大会、仙台にて開催される PSSからは、BIST、12GC plus などを出展

2008年8月5日

仙台市の戦災復興記念会館において、第15回日本遺伝子診療学会大会が7月31日（木）～2日（土）の3日間にわたって（講演会およびPSSからの出展は8月1、2日）、開催されました。今大会では、「個別化診療の実践に向けて」をテーマに据えて、臨床現場の遺伝子検査業務担当者、医学系大学機関、臨床検査受託企業を中心に、遺伝情報に基づいた診断・治療・予防・創薬に関する幅広いセッションが行われました。



PSSからは、メタボ診断でも注目を集める多項目同時解析ツール「BIST」、検出器「BISTnner」に加え、バーコードリーダー、UVランプが付けられた12GC plusなどを出展しました。PSSとも関係の深い岐阜大学大学院、江崎孝行教授（医学系研究科病原体制御学分野）による細菌感染症に関する講演では、BISTを使用した研究成果が報告されたこともあり、PSS製品には関心が集まりました。